

議事録

件名 教育編成委員会ミーティング

管理No 2

日時	7/13/2018
場所	東京服飾専門学校(カレッジカフェ) 豊島区巣鴨1-19-7
出席者	株式会社クレヨン 代表取締役社長 田中大資様 営業本部人事部マネージャー 山田 雄祐様 株式会社GO SOUTH 市川大輔様 株式会社ステップス 取締役 採用教育部長 塚田龍一様 ソーイングアサヒ株式会社 代表取締役 高橋英一郎様 有限会社ビーシーコスチューム 代表取締役 太田えりこ様 日本モデルエージェンシー協会 岩田佳典理事長 <東京服飾専門学校> 野間憲治 中川敬介 大滝秀一 古賀由紀夫 (伏見幸恵 大塚蘭)
欠席者	
概要	少子化の中で小中高は統廃合を繰り返し、専門学校や大学においては定員割れを繰り返し、経営譲渡や廃校になることも。その中で、理想的なカリキュラムが構築され、実践されているか、文科省仕切りのプログラムが用意され、企業と連携をとり、企業内で実際に行われていることを授業を通して教育していくことが必要であるとされている。そのための委員会を設置し、評価を受け、一定の基準を満たした学校について認可をする。専門学校のランク付け、評価をする上で良くない学校については認可が下りない。その中で、本校は、企業様に産学協同授業の面でご協力いただいている実績に基づいて、委員会を設置。ご意見を頂き、認可を受ける運びとさせていただけたらと考えている。
	①各科産学協同授業例(2017年実績)のご説明と新着情報 ■アパレル造形科デザイナー・パタンナーコース、アパレル技能科テクニカルコース ■(有)ビーシーコスチューム様 3コース合同で9月よりスタート予定。 ②他校との産学協同授業の実績 (有)ビーシーコスチューム様 インターンは割と多いが、産学協同は本校のみ。 大変な面というのをどこまで学生に伝えればいいのか迷うところ。夢を壊さないように、現実をどこまで見せればいいのか？2017年度の商品化の際も、学生のデザインを壊さないようにしつつも、会社としての希望を反映させてアレンジを加えたものに。 社会人になっても、辛いことばかりではすぐに辞めたいと考える人も多いので、学生のうちは夢・希望を持たせるのがいいと感じた。 ソーイングアサヒ様 2週間くらいのインターン、集団の見学が中心。

内容	<p>③インターンと産学協同授業</p> <p>■その差とは一体何か？</p> <p>・市川様 「リアリティ」の差？</p> <p>インターン→その会社に入りたいことが前提。現実を見せることも大事。 産学協同→あくまで学生の授業の一貫。楽しい面や夢を与え、業界就職への希望を持ってもらう。</p> <p>㈱クレヨン様 自分たちの描いたデザイン画と、実際にクレヨンで売り出す商品を見比べて、「こういうことか」と理解してもらうのが終着点。 大滝:ビーシーコスチューム様のデザインは、イメージが作品など、ダイレクトに伝わる物なので考えやすいが、洋服の場合は半年先のデザインを考えるため、難しいと感じているよう。</p> <p>④互いにメリットのあるプログラムに ソーイングアサヒ㈱ (アパレル技能科・アパレル造形科について) 以前、学生が運営するアパレルの縫製を受け持ったが、パターンが滅茶苦茶で、こちらのパタンナーが学生に連絡して聞き取りをし、引き直した。 とても大変だった。→もう受けられない</p> <p>☆企業もメリットが無いと長続きしない</p> <p>→企業のメリット、希望とは？</p> <p>⑤モデル業界の産学活動 J.M.A.A岩田様 去年、tfacの学生さんが1名、協会の事務所に所属。今年もすでに1名が所属。学校で教えている授業はクリエイトの部分。モデルはどちらかというとパフォーミングなので、産学という形が、直接結びつくかという微妙。ただ、協会の活動理念の1つとして、産学間のコラボレーションを色々してきたという考えがある。その動きの1つとして、経済産業省とジャパンファッションウィーク機構と組んで、ファッションウィーク東京に、新人モデルを出すという活動をしている。そこに、tfacの学生さんもオーディションを受けていただいた。 モデルが直接クリエイトの現場に関わることは無いが、今、モデルやタレントも多岐に渡ってきていて、落語芸術協会にご協力頂いてMCをやらせていただいたり。 自分のところで色々な制作(主に広告物)をしている会社が増えてきている。ママまでの様に、モデルを派遣するだけではない。そういうところは、学校さんと色々考えていけたら面白いと考えている。</p> <p>⑥まとめ 進行中の企画、進行予定の企画についてはこのまま進行。 今後もなにかアドバイスなどがあれば、その都度頂く。</p> <p>今、産学の中で、企業様へのメリットはあまり多くない。企業様の望む人材を育てるため、我々学校側が努力すべき余地は充分にある。 これから、商売の形がどんどんと変化していく。移り変わりの激しい中で、学生たちの持っている能力や発想を活用頂けるようなシーンがあれば、企業様への恩返しができ、本当の意味での産学の入り口に成るのではないかと考える。</p>
添付資料	
決定事項	<p>進行中の企画、進行予定の企画についてはこのまま進行。 今後もなにかアドバイスなどがあれば、その都度頂く。(⑥参照)</p>
課題事項	<p>・アパレル業界の裏側、現実をどこまで伝えるべきか？(③参照)</p> <p>・産学協同授業の、企業側のメリットとは？(④参照)</p>

次回日程	未定
特記事項	

	作成者
	大塚